

令和6年沼津市教育委員会 第8回定例会会議録

1 日 時 令和6年8月22(木)
午後3時00分～午後3時50分

2 場 所 沼津市役所 8階 801会議室

3 日 程

- (1) 開会
- (2) 会議録署名人の指名（土屋委員 佐藤委員）
- (3) 教育長報告
- (4) 議案
- (5) 協議事項
- (6) 報告事項
報告事項1 学校規模・学校配置の適正化の取組について
- (7) その他
- (8) 報告事項
報告事項2 令和6年度全国学力・学習状況調査について
報告事項3 児童への不適切な言動に係る指導措置について

4 出席者等

教育長 奥村篤、教育長職務代理者 重光純、委員 川口浩史、委員 土屋葉子、委員 佐藤清子、教育次長 金子昭人、教育指導監兼学校教育課長 山崎巖、教育企画課長 原将史、学校管理課長 教職員研修センター所長 長島須美子、教職員研修センター指導主事 大友未来、教育企画課指導主事 内村宗靖、教育企画課指導主事 勝間田幸江、教育企画課主任 岩崎雄

5 会議内容

(1) 開会

奥村教育長が午後3時開会を宣言する。

奥村教育長 8月も残すところ10日ほどとなった。体温を超えるような気温も珍しくなってきた。本日8月22日は暦の上では「処暑」である。立春や冬至と同じように二十四節気の一つであり、処には止める、止まるといった意味があり、この時期から次第に暑さも収まってくるとされている。しかし、最近の日本の夏は残暑が長く続く傾向にある。昨年は10月下旬まで蝉が鳴いていたことを記憶している。昔から処暑のころには台風がよく来るとも言われており、現在台風10号が発生している。天気予報によると、来週あたり東海エリアに接近・上陸すると言われている。また、東京近郊では連日、目を疑うようなゲリラ豪雨にみまわれて、雷鳴をともなう短時間に降る大雨の被害状況が報道されているように、気候変動によって水害が激甚化している。他人事ではないため、週末に備えておきたい。

さて、小中学校では8月29日から2学期が始まる。毎年、文部科学省から長期休みの後に自ら命を絶ってしまう小中高生が多い傾向にあり、児童生徒の自殺予防に向けた取組等の推進が通知される。始業式から早期発見に向けて、児童生徒一

人一人の表情などを観察しながら、気になる児童生徒及び保護者への声掛けをていねいに行って、自殺予防に係る取組の充実が図られるように、学校教育課を通じて各学校へ働きかけをした。

(2) 会議録署名人の指名

奥村教育長より、会議録署名人に土屋委員、佐藤委員を指名する。

奥村教育長より、本日の会議は一部非公開とすることを委員に諮り、了承される。

傍聴人 0人

(3) 教育長報告

奥村教育長 8月の報告させていただく。8月7日の第1回沼津市立図書館協議会へ出席した。この会の挨拶の中で、子供たちの不読率、本を読まない子供たちの低減につながる読書環境の整備が大切であると伝えた。全国学校図書館協議会が昨年度実施した学校読書調査では、2023年度に1か月間本を一度も読まない生徒の割合が、中学生で13.3%、高校生では43.5%という結果だった。実はこれは、前年度に比べて改善されている。まだまだ読書環境の整備が必要であるという数字であると思う。この数字を改善するには、子供たちの身近にいる私たち大人が読書をしている姿を見せていくことも、読書環境の整備の一つであると思う。8月19日にららぽーと沼津を会場に行われた「高校生しゃべり場in沼津」に出席した。土屋委員、佐藤委員にもお越しいただき、会場の2階からは川口委員にも傍聴していただいた。沼津市には10校以上の公立・私立高校がある。このような環境は、県内では政令指定都市の静岡市、浜松市を除くとほかにはない。また、近隣市町からも多くの生徒が通学しているため、高校生の活みなぎる環境を活かし、学校の枠を越えて、高校生が日頃感じていること、社会に対して関心を持っていることを伝える場として、「高校生しゃべり場in沼津」を10年以上前から開催しており、今年で12回目を迎える。高校生の視点から様々な意見を出し合って、意見交換を通してより考えが精査されていった。何より、これからの社会を担っていく当事者としての意識を、高校生たちが持っている様子が見られ、非常に頼もしかった。高校生の話し合いに耳を傾けながら、今後あるべき社会の姿や教育の在り方についても思いを巡らした。また、本日机上に「沼津市わたしの主張大会」の冊子が置かれているが、先日、中学生を対象とした「わたしの主張静岡県大会」が行われ、本市からは3名の生徒が東部地区代表として選ばれたことを前回の定例会で報告した。浮島中学校、長井崎小中一貫学校、市立高校中等部の3名がそれぞれ出場し、速報としてお伝えするが、長井崎小中一貫学校の生徒が「優秀賞」に選ばれた。昨年度、長井崎小中一貫校の生徒が「最優秀賞」に選ばれており、2年連続で長井崎小中一貫学校の生徒が入賞し、快挙が続いている。詳細については、次回9月6日の定例会で報告する。

<議案>

奥村教育長 日程(4)議案は、本日は案件なし。

<協議>

奥村教育長 日程(5)協議事項は、本日は案件なし。

<報 告>

奥村教育長 日程（6）報告事項である。

報告事項1 学校規模・学校配置の適正化の取組について

<浮島中学校区、第二中学校区、大平中学校区の3校区での学校規模・学校配置の適正化の取組やこれまでの経過について報告する。なお、浮島中学校区と第二中学校区では、保護者・地域・学校代表者等で構成する「学校の未来を考える会」の第5回目を開催した。>

(教育企画長 資料に基づき説明)

奥村教育長 説明が終わった。7月12日に教育委員の皆様には、第二中学校区の3校を視察していただいた。第二中学校では、1年生のワークショップ型授業の様子を参観していただいたが、振り返りながら御感想等をいただきたい。

佐藤委員 3校とも建物のあちらこちらに不具合が見られたこと、児童生徒数が減っているため、それらの施設を使わないで済んでいる状況であるが、設備的には何とかしてあげたいと思った。あと、第二地区センターで行われた話し合いについて、前回の水道部で行われた会議を傍聴させていただいたが、これと比べると参加している方々も前回よりは前向きな考えで話をしていると思った。ただ、浮島中学校区の経過と比較すると、第二校区の方が様々な意見が出ていて收拾がつかなくなり、ボタンを掛け違えているのを直すのが大変という感想を持った。

奥村教育長 校舎に関しては、老朽化による施設の不具合は否めない。

佐藤委員 統合するにしても、小中一貫校をつくるにしても、その間の仮の校舎など児童生徒がどこで勉強をするのかが気になった。

土屋委員 生徒が少ないということで、校舎の中から雑草が生えているのが見えるというのが、すごく寂しい気がした。子供たちは、今の少ない人数の中での経験しかないので分からないかもしれないが、大勢の中で生活する学校生活がどれだけ楽しいか、ということを教えてあげたいと思った。人数が多くなると、大勢の中で自分たちが迷子になるという意見や、給食のおかわりができないといったかわいい意見もあったが、これらは子供たちが概念的に心配していることであって、大勢の中で皆の意見を聞きながら自分も学んでいけるという環境が、どれだけ素晴らしいことかを教えてあげたいと思った。

重光委員 校舎がかなり老朽化していて、第二中学校の雨漏りがひどく、天井に穴が開いているのが気になった。今の施設を使うわけにはいかないため、統合するにしても、早く方向性を決めないと施設に関する改修も進まないと思った。千本小学校の1学年3人というような人数についても、子供たちにとってはそれが普通なのかもしれないが、果たしてそれはどうなのかと思った。幼稚園の時よりも人数が減っている状況にいる。ワークショップでも子供たちの様々な意見が出ていたが、今まで人数が少ないのが普通で、それでやってきたから、人数が多い方がいいのかどうかは、分からないと思う。人数が少ない方が友達同士仲良くなりやすいというのはあるかもしれないが、どの社会に出ても、そこに3人しか仲間がいなくて、ということはないので、できる範囲で相性が悪い人たちともそれでつきあったり、人数が集まることでグループができたり、これらを経験するにも学校が良い出口なのではないかと思った。一方で、子供たちなりの意見もあるので、そういう考

え方もあるなと思いついて聞いていた。あと、第二小学校の「ことばの教室」は力を入れている取組と感じられてよかった。いずれにせよ、方向性を早く決めて、そちらに向けて動いた方が、子供のためにも設備へのお金のかけかたにしても、進めた方がよい。何事にも良いこともあれば悪いこともあるため、悪いことばかりを見て進めないよりは、良いことに目を向けて進めるように努力していく方がよいのかと思った。

川口委員 視察をして感じたことは、他の委員も言っていたが、グラウンドの雑草については、PTAも手が回らないと思った。千本小、第二中学校は敷地も広く、児童生徒の人数は少ないため、当然PTAの人数も足りないから、気の毒だと思った。設備についても委員の皆さんがおっしゃったように、ちょうど視察の日が雨の日だったため、体育館の雨漏りでバケツを置いていたり、校舎の天井に穴が開いているといった老朽化は気になった。しかし、私の主観的な意見であるが、古い校舎であるが大事に使ってきたという印象をもった。校舎が古いのに綺麗にしているところはしているし、手が入っているところはしっかり手が入っていて、校舎を大事にしていると感じた。千本小学校の複式学級を視察したが、1年生の男の子、2年生の男の子と一人ずつしかいない。同性の友達を選べない、この関係がちょっとでもずれたらどうなるのか、不登校が増えている中で、よりそういう要素が増えてしまわないか。小規模は温かそうだが、一方で、逃げ場がないというのが怖いと感じた。あと、「ことばの教室」について何らかの形で残せるといいと思った。

佐藤委員 「ことばの教室」の先生がおっしゃっていたが、統合とか、小中一貫学校になった場合、ここの施設はどうなるのかと、心配していた。話しているのを隣の教室から見るができるという設備も失われてしまうのかと言っていた。

奥村教育長 どう活かすのか、残すのか、残さない場合には機能を保持できるようなものはあるのか、検討していきたい。多くの子供たちと触れ合う機会、交流の機会というのも、小規模校同士で交流したり、その結果、少ないより多い方が良いとか、やっぱり、今の人数の方が良い、といったそれぞれが感じた経験は全くゼロではない。ほかにいかがか。なければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

<その他>

奥村教育長 日程（7）その他である。
何かあるか。なければ、残る日程は非公開とする。

報告事項2については、公表前の事項が含まれているため当日は非公開としたが、公開できることとなったため公開する。

報告事項2 令和6年度全国学力・学習状況調査について

<令和6年4月18日、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に、国語、算数数学で実施された令和6年度全国学力・学習状況調査の結果が公表された。各教科及び質問紙の状況について報告する。>
(教職員研修センター所長 資料に基づき説明)

奥村教育長 報告が終わった。速報値ということで報告があった。10月の定例会で詳細な報告があると思う。御意見、御感想はいかがか。

土屋委員 何年も結果を見ているが、沼津市は小学生の時は全国より平均は低いが、中学校になると平均が全国よりも上がってくる。のんびりした子供たちで、小さい頃は競い合わずに、緩やかな環境で楽しく学習していて、中学生になって高校受験を見据えて本当の実力が出てくる。沼津の子たちはそういう子供が多いと感じている。

川口委員 一つ質問があるが、検証改善委員会での改善案が、どのように現場に伝わっているのか。その流れをお聞きしたい。

教職員研修センター所長 10月中旬頃、各学校に分析結果や今後こういうところに力を入れていくと、児童生徒の成長が期待できる授業づくりポイントや改善等の報告をする。口頭や資料だけでは、学校へ上手く伝わりにくい部分もあるため、令和4年度から動画にして、校内全体で視聴し、授業づくりに活かせるよう発信している。小学校でいうと実際調査を受けているのは6年生だが、結局6年生までの積み重ねた力に対する改善案となるため、全職員で共有して授業づくりや指導に活かせるようにしている。

川口委員 動画というのは、検証改善委員会で作成しているのか。

教職員研修センター所長 検証改善委員会の結果を受けて、教職員研修センター中心に作成している。

川口委員 了解した。

奥村教育長 ほかにいかがか。なければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

報告事項3は個人情報が含まれているため非公開とする。

奥村教育長 以上をもって本日の定例会を閉会する。

午後3時50分 閉会